



皆さんこんにちは！
 地域おこし協力隊の渡辺です。
 今月は、中町集落の屋号看板設置と出戸集落の岩屋様の御開帳について紹介
 します。



地域おこし協力隊 集落支援担当
 わたなべ たかひろ
 渡辺 貴洋 隊員

「屋号」看板を設置

中町集落の全25戸に屋号看板を設置しました。これは、以前から現地調査や人足などで交流のある福島大学の学生が発案し、福島県の補助を受けて実現に至りました。学生の提案やアイデアが形となり集落に残り続けることは、関わった学生や集落の皆さんにとって記憶に残るものになるでしょう。

屋号の由来には、字名や先祖の名前、昔宮んでいた家業や店の名前などさまざまあります。昔から受け継がれてきた家だからこそ残るものの価値が、目に見える分かります。い形になると面白いです。



設置された屋号看板

中町集落のほかにも、町内では野沢地区や上野尻集落でも、屋号看板を目にすることができま。屋号で呼び合う文化が根付いている地域だからこそ、こうした取り組みが広がってきているのかもしれない。

今回、各戸に看板を取り付けたことにより、集落を通る人から注目が集まりました。福島民友新聞にも掲載していただきました。少しでもこの取り組みによって集落や町が注目されるきっかけに繋がればと良いと思います。さらには、交流人口や関係人口が増えていくことを期待しています。

岩屋様の御開帳

9月13日、出戸集落で岩屋虚空蔵尊が御開帳されました。今年は、新型コロナウイルスの影響により、町民限定で自由参拝としました。この祭礼を集落のイベントにしてから今年で8年目を迎えました。昨年は参加者を募ることはできませんでした。今年には町内各地から15人が参拝に訪れました。



お堂は、集落から片道1.5kmの参道を20〜30分ほど歩き、石段を上ったところにあります。その中には、町重要文化財の虚空蔵菩薩坐像と、不動明王立像、毘沙門天立像が祀られています。集落に500年以上も脈々と信仰が受け継がれています。

参拝に来た人は、無病息災を願いながら、岩窟のお堂で岩屋の説明に耳を傾けたり、おみくじを引いたりしていました。



岩屋のお堂の様子

現在、岩屋様がある出戸集落は、高齢化率が88%を超えています。この数字は、町内においても非常に高い数値です。ですが、高齢化率が高いからダメだと諦めるのではなく、高齢化率が高くて、自分たちができる範囲で活動しようとする姿はとてたくましく、集落の元気づくりにもつながっていると思います。